

近藤 勇先生を偲ぶ

近藤 勇先生には、お元気でお過ごしのことと
思っておりましたのに、思いもかけず先生の訃報に
接し残念でなりません。

私が先生に初めてお会いしたのは、先生が岩手医
大への講師出張を終えられて細菌学教室に戻られて
の早々、仙台で開催された日本電子顕微鏡学会に出
席のため病理学教室（高木文一教授）の同僚ととも
に列車に乗り込んだ上野駅のプラットホームでし
た。美しい奥様が赤ちゃん（行人様？）を抱いてお
見送りに来られたのを覚えております。

当時の私は慈恵医大を昭和27年卒業直後の無給
副手で、病理学の勉強と同時に細胞・組織の超薄切
片作製技術開発研究に夢中でした。

当時の電子顕微鏡は普通、加速電圧が50KVで
したので、細胞や組織の微細構造観察には透過・解
像力に大きな問題があり、切片の厚さが薄いほど
次々と新しい微細構造が発見されていたことから、
日本を含め世界各国の各大学や研究機関はこぞって
出来る限り薄くて（凡そ200m μ 以下？）コントラ
ストのよい切片を作るための努力をした時代でし
た。当時の慈恵の細菌学教室の教授は寺田正中先生
で、電顕的な研究は専ら金属蒸着によるシャドウ像
での外形観察でしたが、バクテリオファージの大腸
菌侵入時の像を明らかにされたことで有名でした。
近藤先生は勿論このお仕事に携わって居られたと思
いますが、後年、形態研究にはあまり積極的でない
ことについての小生の質問には、「僕は目に見える
現象より目に見えない現象を追求することにロマン
を感じるのでよ」と言われたのを思い出します。

先生はロマンチストで絵画油彩がご趣味でした。



ご自宅に近い湯島界限から御茶ノ水あたりの風景、
特にニコライ堂のある風景を好んで描いて居られた
様で、あの象徴的な礼拝堂そのものよりも、特にそ
れをポイントにした御茶ノ水から湯島界限の風景を
描いた数々の作品も画集として拝見させていただきました。

阪大の橋本初次郎教授や京大の小川和朗教授のお
世話で開催された日中電顕学会には何度となくご一
緒させていただき、学会後に敦煌や黄山など中国各
地の観光旅行を楽しんだことなど今は懐かしい思い
出です。

先生の細菌学教室と私の微細形態研究室とは同じ
大学前棟の3階と4階という位置関係にあったこと
もあり、いろいろな機会にお邪魔してはお話を聞か
せていただいたりご相談にもものっていただいたりし
たものでした。

電子顕微鏡による若手研究者の優れた研究を助成
するために風戸健二氏（日本電子社長）が設立され
た風戸財団の研究助成のお仕事でも、近藤先生とは
長い間、御一緒させていただきいろいろと教えてい
ただくことが多かったと思っております。

先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

鈴木昭男（慈恵医科大学）